

2022 SUPER FORMULA Team Report : Round 1 & 2

2022.4.11

Round 1 富士スピードウェイ(4月9日)

佐藤蓮と三宅淳詞、ルーキーの二人が揃ってデビュー戦で入賞、ポイント獲得

- ・53号車の佐藤蓮は9位でフィニッシュ、予選2番手も含め合計4ポイント
- ・55号車の三宅淳詞は11番手からスタートした決勝は10位入賞で1ポイント

◆53号車 佐藤 蓮

予選: 2番手(1分21秒668)

決勝: 9位

◆55号車 三宅 淳詞

予選: 11番手(1分22秒210)

決勝: 10位



4月9日(土)、2022年全日本スーパーフォーミュラ選手権が開幕し、ラウンド1が富士スピードウェイで開催されました。今季がSF初参戦のTEAM GOHにとっても、ルーキードライバー、佐藤蓮と三宅淳詞にとってもデビューレースとなる重要な1日。しかも、今シーズンから導入された1大会2レース制の最初の大会の1戦目。

予選の仕組みも今季から新たにノックアウト式が採用され、佐藤蓮は A 組、三宅淳詞は B 組で Q1 にアタック。結果、二人揃って Q1 を突破し、Q2 に進出。53 号車の佐藤蓮はタイヤマネジメントに改善の余地が残ったと言いながらも、予選 2 番手のタイム、1 分 21 秒 668 を記録し、フロントローを獲得。三宅淳詞は Q2 で思うようにアタックがきまらず 1 分 22 秒 210、決勝は 11 番手からのスタートとなりました。

迎えた午後の決勝では、スタートでベテラン勢を中心に各車がダッシュをきめる中、佐藤、三宅、ともに出遅れることに。さらに、53 号車佐藤はスタートの遅れを取り戻そうとしているオープニングラップの途中、ダンロップコーナーで追突されスピンを喫してしまい、18 番手までポジションダウン。

しかしながら、その後はマイレージの高いタイヤでの佐藤の速さと周囲の状況からステイアウトの戦略をとり、トップと同じレベルのペースで順調に周回を重ね、41 周回のデビューレースは 9 位でフィニッシュ、入賞を果たしました。

一方 55 号車の三宅は 11 周回でピットストップ、タイヤ交換をした後はルーキーらしからぬ安定したペースで我慢のレースを展開。途中オーバーテイクやバトルなども交え、最終的にはスタートから 1 つポジションを上げて 10 位入賞、1 ポイントを手に入れました。

◆チーム監督 山本雅史のコメント

「蓮くんは、予選でみごとフロントローを獲得しましたが、スタートで若干遅れてしまいました。さらにオープニングラップで追突されたこともあり18番手まで落ちましたが、エンジニアをはじめチームがよくドライバーをサポートし、ドライバーもねばり強く取り返してくれ



ました。戦略的に少しピットストップのタイミングが遅かったのですが、結果、予選2番手の2ポイントに加え、9位でフィニッシュの2ポイント、合計4ポイント獲得できました。デビュー戦としてはまずまずだと思いますし、今後につながるレースができたと思います」

「三宅君は予選11番手、決勝レースはスタートで遅れたのと、仕方なかったのですが、ちょっとコースアウトしたり、というのがありましたが、早めのピットイン戦

略で、後半、安定したタイムで走れて、10位入賞の結果となり、1ポイント獲得できました。ルーキードライバーふたりともにデビュー戦でポイントが獲得できたことは意義が大きく、今後の9レースが楽しみになってきました」



◆53号車ドライバー 佐藤蓮 のコメント

「スタートで出遅れてしまい、混乱に巻き込まれてしまったため、ほぼ最後尾から追いつけることになってしまいましたが、チームと無線でやりとりしながらモチベーションをキープし、なんとかポイントを獲得することができました。悔しいところはありますが、明日に向けてポジティブなデータもとれましたし、第2戦は優勝目指して頑張りたいと思います」

◆53号車エンジニア ライアン・ディングル のコメント

「富士はタイヤマネジメントがとても大切なコースなので、予選はドライバーともよく話し合っ、タイヤのウォームアップについて作戦をたてました。10分間のQ1はとても上手くいきましたが、7分間のQ2についてはまだ改善幅がありました」

また、スタートがうまくいかず、オープニングラップのダンロップコーナーで追突されたりしたのですが、ドライバーが諦めず冷静に、とても集中して頑張ってくれ、ペースも良かったです。明日の第2戦に向けては、まだセットアップに改善余地があるのと、スタートからオープニングラップについての改善、そしてピットワークでのロスをなくすことで、トップと戦えると思います」

「またレースでは、複数のエンジニアがそれぞれの仕事をきっちりこなし、分析のスピードも速く、それが良い結果につながっていて、皆に感謝しています」



◆55号車ドライバー 三宅淳詞 のコメント

「スタートのポジション争いで順位を落とすことになってしまったのですが、チームの戦略とタイヤ交換後のペースがよく10位でフィニッシュできました。今回のレースを振り返ってみると、僕がQ2でセクターをうまくまとめることができずに順位が沈んでしまったことが大きく影響してしまったので、第2戦は予選で

のまとめ方や、レースの序盤の走り方などを見直して、チームで戦略をねり、予選で少しでも前に出て、決勝もさらに頑張りたいと思います」

◆55号車エンジニア 岡島慎太郎 のコメント

「予選は、まず Q1 を突破できたことが良かったです。ただ Q2 ではタイムが伸び悩んでしまいました。セットの方向性に問題があり、オーバーステアが出たり、乗りづらいクルマになっていたようで、明日の予選についてセットアップの修正をします。決勝はテスト 11 番手からのスタートで、途中バトルでポジション失ったりしましたが、ピットストップの戦略や、コース上で三宅選手のオーバーテイクもあり順位を回復し、最終的に 10 位入賞でフィニッシュでき、初レースで初ポイント獲得できました。次戦につながる良い結果だと思います。クルマのセットアップとしてはバランスがとても良く、レースペースも周囲のクルマと比べて速い方でした。明日もロングランのペースは良いものになると思うので、まずは予選でしっかり速さを出し、決勝につなげられるようにしたいと思います。

###



Round 2 富士スピードウェイ(4月10日)

- ・53号車の佐藤蓮は13位でフィニッシュ、開幕2戦連続でのポイント獲得はかなわず
- ・55号車の三宅淳詞、決勝9番手からスタートし5位でフィニッシュ。2戦連続ポイント獲得

◆53号車 佐藤 蓮
予選: 4番手(1分21秒 754)
決勝: 13位

◆55号車 三宅 淳詞
予選: 9番手(1分21秒 934)
決勝: 5位



4月10日(日)、前日のラウンド1に引き続き富士スピードウェイで2022年全日本スーパーフォーミュラ選手権ラウンド2が開催され、TEAM GOHの55号車、三宅淳詞は9番手からスタートした決勝レースで5位入賞を果たしました。また、53号車の佐藤蓮は、予選4番手を記録しましたが、決勝は13位でチェッカーを受け、2戦連続のポイント獲得はかなわず、次戦鈴鹿大会に意欲をみせました。

53号車の佐藤は、Q1の1回目のアタックで四輪脱輪があり、2回目のアタックで辛くもB組6番手でQ1を突破し、短いインターバルでマシンに微調整を施してのぞんだQ2では1分21秒754を記録し4番手となりました。しかしながら、決勝はスタートで出遅れ集団のトラフィックの中で走ることになり、ピット戦略も噛み合わないまま、ポジションキープの状態のレースが続き、最終的に13位でフィニッシュしました。

一方55号車の三宅は、前日ラウンド1の時とはセットアップを変更してQ1に挑み、みごとトップタイムでQ2に進出。ところが、Q2ではうまくまとめることができずに1分21秒934、9番手にとどまることに。それでも決勝では抜群のスタートをきめて見せ、その後もルーキーらしからぬ危なげない走りで、時にオーバーテイクやバトルも交えながら41周回のレースを完走、スタートから4ポジションアップの5位入賞となりました。

◆チーム監督 山本雅史 のコメント

「今日の佐藤君は、Q1では、Aコーナーでオーバーランしてしまい、1回目は無駄になってしまいました。厳しい状況でしたが、なんとか2回目のアタックで6番手につけてQ2に進出しました。Q2ではもう少しけるかなとも思ったのですが、P4で、まずまずの予選結果でした」

「決勝はスタートのクラッチが、色々考えすぎた結果遅れてしまい、ポジションを大きく落として集団の中に埋もれてしまいました。その後、私たちの反省としては、戦略的に早めのピットインでクリーンエアに入れるつもりだったのですが、タイミングが合わず、ここは、今後チームの底上げに関する課題です。今週末、開幕富士大会の2日間で佐藤君も私たちチームスタッフも多くを学んだので、次戦にフィードバックしたいと思います」

「一方今日の三宅君ですが、予選は素晴らしい走りでQ1はトップタイム。Q2はタイヤを上手く使いきることができずに9番手という結果でした。レースはスタートがとてもうまいき、その後のペースも良く、途中昨日優勝した平川選手をオーバーテイクする場面もあり、ピ



ットにいる私たちを大いに興奮させてくれました。ただ、そこはさすが平川選手で、そうそう簡単にはいかず、また平川選手に抜き返されることになりました。全体ではセオリーどおりの良い戦略を実行し、うまく運んだ感じです。最後、ペースは良い感じだったので 4 位の山下選手を抜けるかなという思いもありましたが、少し厳しく、5 位という結果になりました」

「53 号車の佐藤君と、三宅君、ふたりともルーキーらしからぬ落ち着いた走りを見せてくれているので、今年 1 年が楽しみです。ふたりの応援、よろしくお願いいたします。」



◆53 号車ドライバー 佐藤蓮 のコメント

「今日は予選で P4、決勝 P13 でした。予選 Q1 ではアタック 1 回目で四脱があり、仕切り直して 2 回目のアタックでなんとか通過できました。Q2 ではセットアップをアジャストして挑みましたが、良いフィーリングで走ることができ、P4 となりました」

「決勝はスタートで出遅れてしまい、その後ミニマムの戦略でアンダーカットを狙おうと思ったのですが、ピットロスが多く、トラフィックの中で走ることになってしまい、ペースをあげられず、ポジションキープの状態に甘んじることになりました。全体的にうまく噛み合わないレースとなってしまいましたが、次戦に向けて分析を進めて、解決したいと思います」

「次の鈴鹿は昨年 12 月と今年 3 月と、テストで 2 回走っていますが、チームとしてもかなり自信をもてるサーキットなので、上位から良い蹴り出しができるよう予選からしっかり頑張りたいと思います」

◆53号車エンジニア ライアン・ディングルのコメント

「予選は昨日のセットアップをベースに微調整しましたが、1回目のアタックで四脱があり、2回目のアタックでギリギリQ1を通過しました。Q1から戻ってすぐにデータを分析、微調整を施してQ2に送り出しましたが、フィーリング良く走れ、2番手と4/100秒位の差のP4でした」



「決勝でもフィーリングは良かったのですが、戦略やタイミングが良くありませんでした。ピットアウト後、結局エアロも少なく、ドライバーとして何もできない状況の中で走らせてしまったことは、ドライバーに申し訳なく思っています。今後、チームがその時々の中で、いかに判断をし、実行するのか、もう少し、チームとしてのスキルを上げていきたいと思います」



◆55号車ドライバー 三宅淳詞 のコメント

「Q1はトップタイムで通過できましたが、Q2では僕のスイッチ操作のミスでうまく合わせることができずに、9番手で終わってしまいました。それでも決勝では、スタートも上手く決められて、ペースも良く、5位まで追い上げることができ、表彰台には届きませんでしたが、良いレースができたと思います」

「次戦の鈴鹿はコース特性も雰囲気もかわりますし、そうそう簡単にはいかないと思いますが、精一杯頑張りますので、応援よろしくお願いします」

◆55号車エンジニア 岡島慎太郎 のコメント

「昨日ラウンド 1 の予選で 53 号車が速かったので、そのセットアップを参考にして、エアロバランスとメカニカルバランスを調整してのぞんだところ、見事にトップで Q1 を通過できました。Q2 では、車両側にトラブルが出てしまったのですが、アタックに向けてうまくまとめられず、9 番手にとどまる結果でした。それでもセットアップを含め、車両のパフォーマンスは上がっており、前日のラウンド 1 より進化したと思います」

「レースはラウンド 1 のセットアップから微調整してのぞみ、三宅選手のスタートもきまって、P9 から P7 にジャンプアップ、平川選手の後ろを走ることになりました。良いペースで走れており、当初ピットインはミニмум戦略でいこうと思っていましたが、53 号車のポジションやタイミングもあり、途中でひっぱる方向に変更し、レース中盤でのピットインになりました。ピットアウト後もうまい感じで入れて、ペース良く走ることができ、5 位でフィニッシュできました。ドライバーもチームも多くを学び、1 歩前進できた週末でした。次の鈴鹿に向けてはさらに上を目指し、表彰台を狙っていきたいと思っています」

###

